日本近世の宗教と社会

菅野 洋介著

2011年
4月刊行

▼A5判・三六八頁／定価 八、一九〇円（税5％込）

ISBN978-4-7842-1572-0

奥州と関東を主に、戦国期以降の仏教・神道・修験道・陰陽道等と地域社会とのかかわりを、東照宮や寛永寺を中心とした幕府権威をも視野にいれて考察。

本所権威の在地社会への浸透、在地社会における諸宗教の共存と対抗、民衆宗教の展開とそれを規定する社会情勢、そして在地寺院など宗教施設の「場」としてのあり方を追求する。

●内容目次●

序論　本研究の位置

第一編　南奥州における宗教と在地社会

第一章　奥州信達地域における惣社制の形成
——地方神職の動向を中心に——

第二章　近世中後期における惣社制を支えた人々
——伊達郡小手地域の修験を中心に——

第三章　地方神職・修験の活動と在地社会
——奥州伊達郡を中心に——

第四章　惣社制と地方神職の動向

第五章　霊山寺の復興と秩序形成
——別格官幣社創出の諸前提——

補章　近世後期における南朝の顕彰と在地社会
——奥州伊達郡を事例に——

第二編　関東における修験と在地社会

第一章　本山派修験の活動と真言・禅宗寺院

第二章　関東における本山派修験の存立事情
——祭道公事論の再検討を通じて——

第三章　幕末期における修験の動向と在地社会
——武州入間郡を中心として——

第四章　近世における禅宗寺院の機能と在地社会
——下野国足利郡山川村長林寺を例に——

第三編　民衆宗教の展開と近世国家

第一章　関東における富士信仰の展開と幕府権威
——天台勢力のあり方を中心に——

第二章　民衆宗教と本所権威
——富士・木曾御嶽信仰をめぐって——

結語

かんの・ようすけ…一九七五年福島県生まれ。二〇〇四年駒澤大学大学院人文科学研究科歴史学専攻博士後期過程満期退学。博士（歴史学）。現在、駒澤大学非常勤講師・市立市川歴史博物館学芸員。主要論文に、「輪王寺宮の権威と在地寺社の動向」（『近世の宗教と国家二　国家権力と宗教』吉川弘文館、二〇〇八年）、「富士信仰の展開と秩序形成—天台勢力との接点をめぐって—」（『富士山と日本人の心性』岩田書院、二〇〇七年）など。

思文閣出版 〒605-0089 京都市東山区元町355 【2011年6月27日より左記に移転】 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp　E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票	発行：思文閣出版	（京都　取引コード 3402）	
冊数	冊	日本近世の宗教と社会　本体7,800円（税別）　ISBN978-4-7842-1572-0	
お名前		tel e-mail	
ご住所	〒		
送本方法	□書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） □代　　引（書籍代＋送料を現品と引き替えにお支払い下さい）		書店番線印

室町期東国社会と寺社造営
小森正明著　思文閣史学叢書

寺社の造営事業は、寺社を中心とする経済活動―寺社領経済―の発展に大きな効果をもたらした。本書は、鎌倉府体制下にあった室町期の東国社会に、寺社造営事業と寺社領経済が与えた影響を考察する。「香取文書」など中世東国の「売券」の長年にわたる分析に基づく成果。

▶A5判・356頁／定価7,350円　ISBN978-4-7842-1421-1

※日本近世地誌編纂史研究
白井哲哉著　思文閣史学叢書

日本近世の領主支配における文化行為の意義に着目し、地誌編纂を一つの政治的文化行為と位置づけ、その機能や実態について明かし、また日本の地方史・地域史研究に対する歴史的考察の観点から、さまざまな地誌の具体的な編纂活動をとりあげる。

▶A5判・386頁／定価9,660円　ISBN4-7842-1180-2

太子信仰と天神信仰　信仰と表現の位相
武田佐知子編

時代を超えて、上下を通じた諸階層の篤い崇敬を得てきた、聖徳太子信仰・天神信仰の比較研究。各専門分野の研究者による、両信仰に関わる美術史、文学史、宗教史、芸能史的研究を集成し、時代のニーズとともに変化する信仰の形態等を宗派や地域を越えて多面的に利用されるそれぞれの信仰の進化形について明かす。

▶A5判・354頁／定価6,825円　ISBN978-4-7842-1473-0

社家文事の地域史
棚町知彌・橋本政宣編　神社史料研究会叢書Ⅳ

【内容】『守武千句』の時代(井上敏幸)／中西信慶の歌事(神作研一)／伊藤栄治・永運のこと(川平敏文)／中島広足と本居宣長(吉良史明)／伊勢御師の歌道入門(加藤弓枝)／北野宮仕という歌学専門職集団の組織と運営の実態(棚町知彌)／北野社家における歌道添削について(菊地明範)／近世における地方神主の文事(橋本政宣)　ほか

▶A5判・376頁／定価7,875円　ISBN4-7842-1257-4

社寺造営の政治史
山本信吉・東四柳史明編　神社史料研究会叢書Ⅱ

【内容】神社修造と社司の成立(山本信吉)／建武新政期における東大寺と大勧進(畠山聡)／金沢御堂創建の意義について(木越祐馨)／戦国期能登畠山氏と一宮気多社の造営(東四柳史明)／中近世移行期における寺社造営の政治性(横田光雄)／両部神道遷宮儀礼考(松尾恒一)／近世出雲大社の造営遷宮(西岡和彦)　ほか

▶A5判・312頁／定価6,825円　ISBN4-7842-1051-2

口頭伝承と文字文化　文字の民俗学　声の歴史学
笹原亮二編

「口頭伝達を重視する民俗学、文献を重視する歴史学」という固定観念は崩れつつあるものの、明確な方法論は未だ打ち出されていない。フィールドワークによる生の資料と、文字で伝えられた資料両者の扱いかたに着目し、新たな研究方法について論じた意欲作。

▶A5判・444頁／定価7,350円　ISBN978-4-7842-1447-1

一休派の結衆と史的展開の研究
矢内一磨著

一休没後も存続した一休派の結衆とその史的展開を解明することで、中世末期の寺院研究史上の欠如を埋める。一休の印可、法嗣否定による法統断絶の危機、門派結衆の軸としての一休塔所での評議、門派での祖師忌法会を第一部でとりあげ、大徳寺復興や在俗信仰者の結衆の問題を第二部で扱う。

▶A5判・370頁／定価8,190円　ISBN978-4-7842-1525-6

※王権と神祇
今谷明編

実証的研究の蓄積が少ない天皇制や大嘗祭、また権門体制論・顕密体制論によって規制されがちな中世神祇史について、実態面の研究を積み重ね、さらに中世日本紀や神道書の考証も重ね合わせることにより、王権と宗教に関する新たな見取り図を描き出すことを目指した意欲的な論集。

▶A5判・348頁／定価6,825円　ISBN4-7842-1110-1

戦国期関東公方の研究
阿部能久著　思文閣史学叢書

関東府の長である関東公方権力の戦国期から江戸期初頭にかけての諸問題の解明に取り組む。公方発給文書の様式変化にみる権力構造の実態、鶴岡八幡宮・鑁阿寺や禅宗・一向宗などの寺社勢力との関係、関東公方家の後裔である喜連川家の幕藩体制下の位置、さらに武家故実書『鎌倉年中行事』の成立背景を探る。

▶A5判・320頁／定価5,985円　ISBN4-7842-1285-X

棟札の研究
水藤真著

寺院の殿堂や神社などの上棟式・大修理・屋根替のさいに、建物名・願主・工匠名・上棟年月日などを記して棟木に打ち付けた板を棟札という。本書は、国立歴史民俗博物館が行った棟札調査報告書をもとに、定義・概要・書式の考察から棟札の意味・価値など多方面から検討を加え、研究の整理と方向性を示した一書。

▶A5判・230頁／定価3,990円　ISBN4-7842-1243-4

神社継承の制度史
椙山林繼・宇野日出生編　神社史料研究会叢書Ⅴ

【内容】名神の研究(山本信吉)／石清水八幡宮の祭祀と僧俗組織(西中道)／若狭彦神社の神仏関係(嵯峨井建)／吉田兼右の神道伝授と阿波賀春日社(宮永一美)／中近世移行期伊勢神宮周辺地域の経済構造(千枝大志)／御棚会神事と賀茂六郷(宇野日出生)／近世初期における加賀藩の神社統制(鈴木瑞麿)　など

▶A5判・348頁／定価7,875円　ISBN978-4-7842-1418-1

祭礼と芸能の文化史
薗田稔・福原敏男編　神社史料研究会叢書Ⅲ

【内容】神社廻廊の祭儀と信仰(松尾恒一)／相撲節会と楽舞(廣瀬千晃)／中世諏訪祭祀における王と王子(島田潔)／鹿島神宮物忌職の祭祀(森本ちづる)／越前志津原白山神社の祭礼芸能(宮永一美)／武蔵国幕閣大名領における祭礼の振興(薗田稔・高橋寛司)／近世鶴岡八幡宮祭礼としての面掛行列(軽部弦)　ほか

▶A5判・300頁／定価6,825円　ISBN4-7842-1159-4

陰陽道の神々
斎藤英喜著　佛教大学鷹陵文化叢書17

疫鬼や式神、泰山府君、牛頭天王、八王子、金神、盤牛王、そして式王子、呪詛神たち・・・。彼らは近代社会が封印し、消去した「陰陽道」の神々である。本書は、知られざる陰陽道の神々の来歴と素顔を、最新の研究成果にもとづき、平易に説きながら、もうひとつの「日本」の神々の世界を探求していく。掲載写真・図版多数。

▶46判・292頁／定価2,415円　ISBN978-4-7842-1366-5

翁の生成　渡来文化と中世の神々
金賢旭著

中世の翁信仰の生成過程を諸縁起や史料から読みとることで、そこに色濃く反映された韓半島からの渡来文化の姿を見いだし、さらに日本芸能のルーツである翁猿楽の成立についても、韓半島のシャーマニズム文化の影響を指摘する。日本と韓半島との文化交流の、中世における新たな相貌を浮かび上がらせる意欲作。

▶A5判・250頁／定価5,250円　ISBN978-4-7842-1411-2

曹洞宗の地域的展開
鈴木泰山著

中部地方（特に東海地域）における曹洞宗の教理教学の展開と教線の拡張強化の過程を語録・民俗史料を通して明かし、一見反世間的ともみえる「道元禅」がその真髄を保持しながら「曹洞土民禅」といわれるまでに民衆化し伝承されてきたことを実証する。〔解説〕広瀬良弘

▶A5判・380頁／定価8,400円　ISBN4-7842-0792-9

国家と宗教　日本思想史論集
源了圓・玉懸博之共編

【内容】日本思想における国家と宗教(源了圓)／宣命における「天」と「諸聖」(八重樫直比古)／日本古代の神事と仏事(黒崎輝人)／中世顕密仏教の国家観(佐藤弘夫)／中世における神宮宗廟観の成立と展開(高橋美由紀)／日蓮と国土(市川浩史)／中世神道における国家と宗教(玉懸博之)／『増鏡』の皇位継承観(佐藤勢紀子)　ほか

▶A5判・540頁／定価12,600円　ISBN4-7842-0702-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年４回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。